

## 豪華列車でロッキー山脈を越える

広大なカナダ大陸を一度列車で旅してみたい。出来れば雄大なロッキー山脈を越えてみたいと漠然と夢見ていたのは、もう半世紀近くも昔の話である。

6年前の初秋、その夢は現実となった。しかも何としてでも乗ってみたかった、ガラス張りの2階建展望サロンカー（ロッキー・マウンテンニア号）によるものだった。

ヴァンクーバーを出発しカムループス（350 km）で鉄道会社指定のホテルに1泊して、翌朝再び同じ列車でバンフへ向う。2日間845 kmの行程で、高低差は1,625 mもある。2階建の展望車の1階は厨房とダイニングカーになっており、2階席の一等乗客が2回に分かれて食事をとる。1日目は昼食を、2日目は朝・昼食で合計3回の食事は、心の籠ったものだった。昼食はフィッシュとミートの選択だったが、やはりカナダと言えばサーモンに尽きる。2度ともサーモンを賞味することにした。舌鼓を打ちながら窓外を見ると清流では鱒釣りをしている。あんな獲物を我々も食べているのかなあ…………。

歴史の浅いカナダであるが、沿線に宗教や、地味な開拓史の記念碑が見られるのは意外な気がする。展望デッキに立っていると子どもたちが自転車で追いかけてくる。途中岩肌立ちつくすマウンテンシープ、牧場に寝転ぶホルスタイン牛、溪流を縫うカヌー等を横目に、列車は険しい断崖に沿って走り、螺旋状のトンネルを潜ったり、滝の水しぶきを浴びながらスリル満点の牧歌的な情景を演出してくれた。自慢の鉄道施設に近づくときと徐行して説明してくれたり、風光明媚な鉄橋ではカメラのシャッターチャンスを設けてくれたり、サービス精神たっぷり、5人のアテンダントがニコニコ対応してくれた。

2日目、バンフまであと60 kmの地点で、ついに念願のロッキー山脈の分水嶺（海拔1,625 m）を越えた。やったあ！ロッキーを越えたぞ！ぼ～んぼ～ん！間髪をいれず、シャンペンがふるまわれた。愛想の好いアテンダントが乗客のロッキー越えを祝福してくれたのである。

乗客には夫婦連れが目につく。オランダに住む娘家族を訪ねたついでに、念願の列車の旅でトロントへ帰るといふ老夫婦、山好きの若い夫婦、皆明るく心から列車の旅を楽しんでいる。都会や村落を過ぎ、渓谷を通り、鉄橋を渡り、峠を越え、左手にマウント・アイゼンハウワーが見えてくるともうバンフは近い。デッキで触れる秋の風も心地よい。2日間夢見るような気分のままシャトールホテル、バンフ・スプリングスホテルへ滑り込んで、贅沢旅行の総決算をした。清澄な自然と汚れない環境を堪能した旅の仕上げは、やはりサーモンだった。前菜とステーキに白ワインは一際極上の味だった。

（近藤 節夫記）